

特集 1. 子どもは空間を求めているのか

第 1 回 親子の絆を求める子どもたち**

平成 21 年 7 月 18 日

□ 住宅購入のきっかけ

消費者が住宅を購入するきっかけは様々あります。たとえば、「頭金が貯まったから」、「年齢を考えると」、「転勤」などがあります。また、これら以外にも「親との同居」、「結婚」、「子どもが生まれたから」など、家族の増加を機に住宅を購入するケースも多いのです。

実は、日本ではファミリー向けの広い「借家（集合住宅を含む）」があまり多くは流通していません[†]。それゆえ、十分な広さを得るために、マンションや戸建の「購入」を検討するというケースが非常に多くなってしまっているのです。

□ 何を欲しているのか

こうした事情を考慮すると、子どもや家族のために、住宅購入を検討する気持ちはとてもよく理解できます。しかし、特に「子どもが生まれたこと」を機に住宅購入を検討する際は、非常に慎重に検討を行うべきだと思います。

なぜなら、子どもが真に欲しているのは「空間」ではないからです。

□ 三つ子の魂百まで

「三つ子の魂百まで」ということわざがあります。幼い頃に身に付けた性格は、年をとっても変わりにくいという意味で使われていますが、この言葉は、発達心理学的にみても当を得たものだといえます。

なぜなら、実際に幼少期の養育者（主に母親）との関わり合い、またそこで生まれる親子の絆のあり方は、それ以降の人格にも大きな影響を与えると考えられているからです¹⁾。

** 初めて記事をご覧になる方は、必ず「[利用規約](#)」をご確認ください。

[†] 日本の借家（賃貸住宅含）のほぼ半数は、40 m² 未満。他の先進国に比べ、借家の面床面積が異常に小さいのです。

□ アタッチメント

知覚・運動能力が未発達で、生存能力が極めて低い乳児は、生得的に特定の養育者（多くの場合母親）との近接を求め、それを維持するような行動（しがみつき、泣き、微笑、後追いなど）を行います。子どものこうした（シグナル）行動に対し、養育者が抱っこや見つめ、話しかけなどの応答（マザーリング）を続けることで、両者の間には情緒的な繋がり（**愛着**、**アタッチメント**）が生まれまるのです。

□ 愛着とパーソナリティ

こうした母子間の相互交渉が質・量共に十分かつ安定的で、しっかりとした愛着関係（アタッチメント）が築けた場合、子どもは養育者、はたまた世界に対し「**基本的な信頼**」を獲得することができます。そして、その後もこうした信頼感、安心感をもとに対人・社会関係を安定的に行うことができるかとされているのです。

しかし、母子間の相互交渉が不十分、不安定な場合、残念ながら、子どもはこれとは反対の性向を示すのです。

□ 十分かつ安定的な相互交渉が必要

つまり、子どもが接触や近接を求めても、それが十分に受け入れられず、拒否されたり、あまつさえ、たとえばストレス発散のために八つ当たりされたりするエピソードを経験すると、子どもの心には、不信感や絶望感、「養育者は信頼できない」、「**自分は誰からも望まれない**」という淋しい意味記憶が残ってしまうのです。

こうした意味記憶がもととなり、その後も人間関係が回避的（avoidant）になったり、他者との近接を求めながらも、同時に抵抗的になったり（ambivalent）すると考えられているのです[†]。

もちろん、このアタッチメントのあり方をもって、人格の全てを説明できるわけではありません。もともとの気質やその後の環境的な要因も、人格形成に大きな影響を与えるからです。しかしながら、「三つ子の魂百まで」という言葉に代表されるように、乳幼児期のアタッチメントのあり方は、子どもの人格形成の基盤となっていくのです。

[†] ボウルビイのアタッチメント理論、内的作業モデル（IWM）にならって解釈。

□ アタッチメントと家づくり

しかし、こうした影響の大きさは、現在の家づくり論、建築論の中では取り上げられることはありません。むしろ現在の家づくり論では、住宅ローンなどの経済の話、空間の技術的な話ばかりされているのです。

もちろんこうしたテーマは、住宅購入者にとって非常に重大な検討項目です。しかし、このような家づくりにおける重大項目と、子どもの発達における重要項目とを混同して考えてしまっは大変なことになるのです。

こうした事態を防ぐためにも、次回では、このような本末転倒した考えが、家族のゆとりに対してどれだけ悪影響を及ぼすかについて、考えてみたいと思います。

[次回 家づくりとゆとりのミスマッチ](#)

*記事の感想をお聞かせください

[アンケート画面へ](#)

参考文献

- (1) 木村留美子, 津田朗子, 室橋めぐみ, 和田文子, 島田三恵子, 西村真実子. 幼少期の Attachment と Internal Working Model (IWM), および対人関係との関連について. 母性衛生, Vol. 41, No. 1, 16-23, 2000.
- (2) 山田勝美. 児童養護施設で生活する子どもたちの精神的自立に関する研究 I: アタッチメントセオリーを理論的基盤として. 純心現代福祉研究, Vol. 4, 9-19, 1999.
- (3) 繁多進. [愛着の発達-母と子の心の結びつき-](#). 大日本図書, 1987.

【寄付歓迎】当コラムは無料ですが、ご寄付は歓迎します。詳しくは[ご支援依頼](#)をご覧ください。